



筑波大学図書館情報メディア系の情報専門職養成史

— 図書館員教習所設立から100年を迎えて —

吉田右子

1. はじめに

筑波大学図書館情報メディア系の前身校「文部省図書館員教習所」が開設されたのは1921年6月1日であり、2021年6月に100周年を迎える。前身校から現在までの略史を表1に示した。

表1. 筑波大学図書館情報メディア系前身校略史

年月	事項
1921年6月	文部省図書館員教習所開設（東京美術学校構内）
1925年3月	文部省図書館講習所と改称（校舎は帝国図書館の一部使用）
1945年3月	図書館講習所一時閉鎖
1947年5月	帝国図書館附属図書館職員養成所として再設置
1947年12月	帝国図書館が国立図書館と改称され国立図書館附属図書館職員養成所と改称
1949年4月	国立図書館廃庁により文部省所管となり、文部省図書館職員養成所と改称
1964年4月	図書館短期大学設置
1979年10月	図書館情報大学設置
2002年10月	図書館情報大学 筑波大学と統合、図書館情報専門学群・図書館情報メディア研究科設置

前身校において文部省帝国図書館および国立図書館等、日本の図書館政策に関わる中枢機関との密接な関係のもとに実施された図書館員教育は、図書館界に専門人材を送り出す基盤となってきた¹⁾。本稿では日本でただ一校、第二次世界大戦を挟んで100年間にわたり図書館専門職養成を継続してきた本系前身校の図書館員養成機関としての歴史を概観し、後継組織での学部・大学院レベルにおける人材養成の取り組みについて紹介したい。

2. 図書館員教習所・講習所・図書館職員養成所時代²⁾

文部省図書館員教習所は1921年6月上野の東京美術学校内に開所した。図書館員の専門教育施設としては世界で6番目であった³⁾。開所当時の入学資格は中学校または高等女学校卒業生・現職者と定められ、アメリカの図書館学校のカリキュラムを踏襲した。1925年に機関名称を「図書館員教

習所」から「図書館講習所」へ変更した。

図書館講習所は1945年3月に第二次世界大戦により閉鎖されたが、1947年5月に帝国図書館附属の図書館職員養成所として再発足した。この時の入学資格は旧制専門学校卒業であり修業期間は2年であった。1949年に図書館職員養成所は文部省社会教育施設課の所轄機関となり、この時期に養成所の入学資格を新制高等学校卒業とした。1958年に図書館職員養成所規則が改正され、入学資格を大学・短期大学卒業とし修業期間を1年とする1年課程と、入学資格を高等学校卒業とし修業期間を2年とする2年課程の二つの課程が設置された。図書館職員養成所のカリキュラムは公立図書館職員養成に主眼を置いたものであり、卒業生の主たる就職先は、都道府県立図書館および市立図書館であった⁴⁾。



写真1. 文部省図書館員教習所第一期生卒業記念写真（1922年3月）出典：21世紀図書館情報専門職養成研究基盤アーカイブ

3. 図書館短期大学時代⁵⁾

図書館界と図書館職員養成所の長年にわたる働きかけにより、図書館職員養成所は設立から40年以上の歳月をかけて昇格し、1964年4月に国立図書館短期大学が世田谷区下馬町に開学した。1960年代の科学技術の急速な発達と科学技術振興政策を背景に設置された図書館短期大学では、図書館

学の研究と高度な知識と技術を備え図書館経営の中核となる専門職員の育成を目的に掲げた。定員は図書館学科が80名、図書館幹部職員の養成と図書館学担当の大学教員の養成を意図した1年課程の別科（特別養成課程）が40名であった。教員は教授5名、助教授1名、講師1名、助手2名、兼任10名から構成された。図書館短期大学の開学当初のカリキュラムは図書館職員養成所のそれを踏襲したが、卒業単位数は図書館職員養成所の方が多かった⁶⁾。

1971年4月に図書館学科は、図書館学科（定員80名）と文献情報学科（定員40名）に分離・改組された。文献情報学科では文献情報活動を担う専門職員養成への社会的要請に対し、専門図書館や大学図書館において学術資料の取り扱いに対応できる専門職「アシスタント・ドキュメンタリスト」の育成を掲げた専門教育が開始された。図書館学科と文献情報学科の卒業生の就職先は多い順に、専門図書館、大学図書館、公共図書館、学校図書館となっており、専門図書館への就職者が卒業生全体の約半数を占めた。別科では大学図書館への就職者が修了生全体の約6割を占めた。

図書館短期大学設置審査の際、審査会報告書の設置者に対する留意事項の中に、「図書館学科は、その設置使命から推しても2年制短期大学をもって甘んずることなく、近い将来4年制大学に拡張することがのぞましい」という文言があり⁷⁾、図書館短期大学における四年制大学への昇格運動は開学直後からスタートした。1974年に学内に設けられた「図書館大学（仮称）構想具体化委員会」が4年制大学設立に向けて検討を始めた。1977年には学外者も含めた「図書館大学（仮称）創設準備委員会」が設置され4年制大学設置準備が本格化した。

4. 図書館情報大学時代⁸⁾

図書館情報大学は1979年10月1日に筑波研究学園都市の筑波郡谷田部町に開学し、1980年4月1日から学生を受入れた。この時点で図書館情報学に関わる専攻を持つ大学は慶應義塾大学（1951年設置）および東洋大学（1959年設置）のみであり、学部レベルでは日本初であった。1学部1学科（図書館情報学部図書館情報学科）で構成され、入学定員は、図書館情報学科が120名、3年次編入が20名、図書館情報学専攻科が30名であった。教員は教授（専任）18名、助教授（専任）18名、講師（専任）2

名、講師（兼任）37名、計専任38名、兼任37名、助手13名から構成された。図書館情報大学には図書館短期大学の教員に情報学や情報工学の研究者が加わったが、全体として情報学関連領域の研究者数が優位であった⁹⁾。設置の目的は「情報の蓄積、伝達、利用にかかわる現象と実践を理論的かつ実践的に研究すること、学際的知識を基盤に図書館情報学の専門知識を持つ“基幹図書館職員及び情報処理専門職員”を養成すること」とされた¹⁰⁾。

開学時の図書館情報大学には図書館情報学、情報社会関係論、情報媒体論、情報組織化論、図書館情報システム論の講座が設けられ、カリキュラムは図書館情報学、情報メディア、情報組織化、情報システム論を中核とする専門科目群と教育・政治・経済分野等をカバーする基礎学芸科目と呼ばれる一般教育科目から構成された。また司書資格を得るためには、図書館法施行規則で定められた司書資格取得に必要な単位数よりも9単位から14単位を余分に履修する必要があった¹¹⁾。

1984年4月に、図書館情報学の研究者育成を目的とした入学定員16名の図書館情報学研究科修士課程が設置された。2000年に同研究科は、2年課程の博士前期課程と3年課程の博士後期課程からなる情報メディア研究科へと改編された。

図書館情報大学は25年間にわたり図書館情報学を理論的・実践的アプローチから研究し、情報に関わる高度で専門的な業務に携わる専門職員を育成することで、図書館界・情報産業界において存在感を発揮した。創立から閉学までの間に卒業生の25%弱が図書館に就職し、年度によるばらつきはあるものの毎年30名から40名を図書館界に送り出した。また一定数の大学院卒業生が大学教員として図書館情報学の教育に携わっている。



写真2. 図書館情報大学記念碑
(筆者撮影)

5. 筑波大学時代¹²⁾

日本の図書館情報学分野の研究・教育を先導し

た図書館情報大学は、2002年10月に25年間の歴史を閉じ、研究・教育の領域・方法・内容面での新しい枠組みを求め、総合大学である筑波大学との統合に踏み切った¹³⁾。統合に際し、学部レベルでは図書館情報専門学群が、大学院レベルでは図書館情報メディア研究科が設置された。図書館情報専門学群の入学定員は150名、3年次編入定員30名、図書館情報メディア研究科は博士前期課程の入学定員が37名、博士後期課程の入学定員は21名であった。図書館情報専門学群には、図書館情報管理主専攻と図書館情報処理主専攻の二つの専攻が置かれ、専門知識・専門スキルを持つ図書館職員、情報・資料センター職員、主題知識を持つ情報処理技術者、マルチメディアに関わるコンテンツ開発者等が人材養成の主たる対象として掲げられた。大学院は幅広い視野を持ち国際的に活躍できる専門職の養成を目標に挙げた¹⁴⁾。

2007年に学群組織の改組により、第三学群情報学類と図書館情報専門学群から情報学群が新設され、情報学群には情報科学類、情報メディア創成学類、知識情報・図書館学類の三つの学類が設置された。3学類それぞれの学位は、学士(情報科学/情報工学)、学士(情報メディア科学)、学士(図書館情報学)であり、図書館情報学を中核領域とする前身組織を学部レベルで引き継いだのが知識情報・図書館学類である。学類には「知識科学主専攻」「知識情報システム主専攻」「情報経営・図書館主専攻」(現在の名称は「情報資源経営主専攻」)の三つの専攻が置かれた¹⁵⁾。

2011年に筑波大学は独自の教員組織として系を設置し、知的創造基盤としての図書館情報メディアを多様な側面から研究する「図書館情報メディア系」の新設に伴い図書館情報学に関わる教員は、図書館情報メディア系に所属することとなった。

現在の知識情報・図書館情報学類の人材養成目的は「知識や情報を活用する能力を育み、関連する社会制度と技術の専門教育」を行うこと、「知識資源の形成、加工、流通、利用の発展に寄与する専門家と人間、社会、技術にわたる総合的視野や問題解決能力を持った職業人を育成」することである¹⁶⁾。学類では司書資格に関して2年次までに8科目、3年次以降に6科目を修得する履修モデルが設定されており、科目には国内の図書館・研究所・企業等での職業体験のための「インターシップ」、海外の図書館等での職業体験のための

「国際インターンシップ」が含まれる。本学類の司書資格および司書教諭資格取得のための教育は、資格取得のための科目を知識情報学の専門科目に位置づけている点、情報システムに精通した人材の育成、国内外でのインターンシップの機会の提供で特徴を持つ。また公務員・図書館志望の学生を対象に、教養試験対策が行われている¹⁷⁾。2010年から2019年にかけて公務員・図書館・学校等に就職した卒業生の割合は、約14%から24%を推移している¹⁸⁾。

大学院では2012年度に10月入学の留学生を対象にすべての授業を英語で行う図書館情報学英語プログラムを開設し、知識情報資源を扱う国際的専門家の養成を行ってきた。英語プログラムの修了生の中には、図書館情報専門職のキャリアを基盤に本大学院に留学し、卒業後再び図書館職に就き出身国の図書館運営のリーダーを務めている者もいる。

2020年4月に大学院の改組により図書館情報メディア研究科および専攻は、人間総合科学学術院人間総合科学研究群情報学学位プログラムに移行した。学位プログラムは修士(情報学)の学位を取得する博士前期課程と博士(情報学)の学位を取得する博士後期課程から成り、文理融合の学際的アプローチをプログラムの強みとして「情報を学術・教育・生活・文化等に活用するための専門的業務に携わる人材」(博士前期課程)や「研究に携わる人材」(博士後期課程)の養成を目標に掲げ、この枠組みの中で図書館・博物館・アーカイブズ等における専門的業務従事者や研究開発業務従事者の育成を目指している¹⁹⁾。情報学学位プログラムでは、英語プログラムの継承・発展のために英語での専門教育体制をさらに強化した。本系は図書館情報学関係の有力大学によって構成されたコンソーシアムである iSchools (<https://ischools.org/>)にも加入している。

また前身校の図書館情報大学時代から、大学院課程では社会人大学院生を積極的に受け入れてきた。筑波大学統合後も図書館情報学キャリアアッププログラムおよび図書館経営管理コースを開講し、図書館情報学分野の現職者を対象に高度専門職業人の育成を行っている。なお図書館情報大学で開催されてきた学外者を対象とする司書講習、司書教諭講習、新任図書館長研修、大学図書館職員長期研修に関して、司書講習以外は筑波大学統

合後も引き継がれ現在に至る。

6. おわりに

2013年に本系有志の教員によってアーカイブプロジェクトが立ち上がり、図書館情報メディア系に残されていた約一世紀にわたる図書館員養成の沿革にかかわる歴史的文献史料および実物資料の保全と研究に着手した²⁰⁾。「21世紀図書館情報専門職養成研究基盤アーカイブ」は文献資料(私信・手稿を含む書類、写真資料、音声資料、映像資料)2,730点と現物資料(図書館業務機器・用品類、歴史的情報検索機器・計算機類)273点から構成されており、全点を収めた資料目録をインターネットで公開している²¹⁾。

図書館員養成から始まった本系前身校の専門職養成は、社会的要請に応えながら今日の知識情報・図書館学類および情報学学位プログラムにおける高度な情報専門職の養成体制へ進化を遂げた。専門職養成の目的や体制は度重なる組織の変遷とともに変化し続けたが、その中核の一つは図書館員養成であり図書館員教習所以来、基幹科目の継承という形で今日まで受け継がれている。前身校および本組織を修了し国内外で活躍してきた図書館員および情報専門職の存在は、100年にわたる図書館員教育機関としての証である。

注

- 1) 筑波大学図書館情報メディア系前身校については、以下の文献にまとめられている。図書館職員養成所同窓会『図書館職員養成所同窓会三十年記念誌』図書館職員養成所同窓会、1953、139p；図書館短期大学史編さん委員会『図書館短期大学史：十七年の歩み』図書館短期大学、1981、151p；図書館情報大学同窓会橘会八十年記念誌編集委員会『図書館情報大学同窓会橘会八十年記念誌』図書館情報大学同窓会橘会八十年記念誌編集委員会、2002、262p；筑波大学大学院図書館情報メディア研究科編『図書館情報大学史：25年の記録』筑波大学大学院図書館情報メディア研究科、2005、372p。
- 2) 図書館員教習所・講習所・図書館職員養成所時代については、主として『図書館職員養成所同窓会三十年記念誌』所収の「文部省図書館職員養成所三十年略史」を参照した。前掲1) p.1-17。
- 3) 年代の古い順にドイツ・ゲッティンゲン大学(1886年)、アメリカ・コロンビア大学(1887年)、デンマーク・王立図書館学校(1918年)、イギリス・ロンドン大学(1919年)、中国・武昌文華図書館学校(1920年)、日本・文部省図書館員教習所(1921年)となる。
- 4) 服部金太郎「図書館界と図書館短期大学－図書館短期大学の図書館界に果たした役割を中心として－」『図書館短期大学史：十七年の歩み』前掲1)、p.111。
- 5) 図書館短期大学時代については「図書館短期大学設置審査書類」および『図書館短期大学史：十七年の歩み』、「国立図書館短期大学史：図書館学・文献情報学・図書館情報学への

展開過程」を参照した。吉田右子「国立図書館短期大学史：図書館学・文献情報学・図書館情報学への展開過程」『図書館文化史研究』34号、2017、p.31-100。

- 6) 図書館短期大学のカリキュラムは『図書館短期大学史：十七年の歩み』挟み込み資料に掲載。
- 7) 「図書館短期大学設置審査書類」審査会報告書に添付された文部省大学学術局長から図書館短期大学学長宛の通知書内容
- 8) 図書館情報大学時代については「図書館情報大学設置計画大学等の概要を記載した書類」および『図書館情報大学史：25年の記録』を参照した。
- 9) 図書館情報大学庶務課編『図書館情報大学：五年の歩み』図書館情報大学庶務課、1984、p.12。
- 10) 「図書館情報大学設置計画 大学等の概要を記載した書類」
- 11) 図書館短期大学のカリキュラムは『図書館情報大学史：25年の記録』p.71-154。に掲載
- 12) 筑波大学時代については、図書館情報専門学群設置審査書類、情報学群知識情報図書館学類設置審査書類および現組織のウェブサイト参照した。
- 13) 統合の経緯については『図書館情報大学史：25年の記録』p.24-26。
- 14) 図書館情報専門学群および図書館情報メディア研究科設置時のカリキュラムについては以下を参照。「図書館情報専門課程関係資料」根本彰監修、中村百合子、松本直樹、三浦太郎、吉田右子編『図書館情報学教育の戦後史－資料が語る専門職養成制度の展開』ミネルヴァ書房、2015、p.313-323。
- 15) 知識情報・図書館学類 設置時のカリキュラムについては以下を参照。前掲14) p.334-340。現在のカリキュラムについては、シラバスが以下のURLに公開されている。<https://klis.tsukuba.ac.jp/assets/files/syllabus.pdf> (accessed 2021-03-10)。
- 16) 「情報学群 知識情報・図書館学類」『学群スタンダード』p.152。 https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/ug_00-1.pdf (accessed 2021-03-10)。
- 17) 「知識情報・図書館学類 2021 School Guide」p.5、15。 <https://klis.tsukuba.ac.jp/assets/files/klis21.pdf> (accessed 2021-03-10)；『知識情報・図書館学類 開設授業科目シラバス』前掲15) p.228、229。
- 18) 2006年度から2019年度までの卒業後の進路に関しては知識情報・図書館学類ウェブサイト「卒業後の進路」を参照 <https://klis.tsukuba.ac.jp/497.html>
- 19) 「情報学学位プログラム(博士前期課程)」『大学院スタンダード』p.286。 <https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/gstandard/g-00-1.pdf> (accessed 2021-03-10)；「情報学学位プログラム(博士前期課程)」『大学院スタンダード』p.352。
- 20) 同プロジェクトの概要については以下を参照。吉田右子「『21世紀図書館情報専門職養成研究基盤アーカイブ』プロジェクトについて」<http://hdl.handle.net/2241/00127300> (accessed 2021-03-10)；『21世紀図書館情報専門職養成研究基盤アーカイブ構築：図書館情報専門職の再検討(平成26年度～平成28年度 科学研究費補助金 基盤研究(B) 研究成果報告書)』2017、139p。
- 21) 大原司・望月有希子「21世紀図書館情報専門職養成研究基盤アーカイブ 概要目録」<http://hdl.handle.net/2241/00127368> (accessed 2021-03-10)。

(よしだ ゆうこ：筑波大学図書館情報メディア系)
[NDC10：010.7 BSH：1. 図書館情報学 2. 図書館員]